

# 平成27年度第1回鎌ヶ谷市きらりホール運営委員会会議 会議録

開催日時 平成27年7月14日(火) 午後1時30分～3時30分

会 場 きらり鎌ヶ谷市民会館内 中央公民館 学習室2

出席者

(1) 出席委員 11人

平栗三男委員長、齋藤譲一副委員長、樋口敏之委員、清水暉允委員、伊藤眞由美委員、植草ひろみ委員、小川由美子委員、相澤美智子委員、佐瀬光代委員、加藤嘉美委員、石井圭子委員

(2) 欠席委員 1人

内山治委員

(3) 事務局 3人

田中生涯学習部参事(事) 市民会館長、平澤市民会館主査、矢野市民会館主事

傍聴者 0人

## 1 開会

## 2 会館長挨拶

～会館長から挨拶～

(事務局)

議事に入る前に鎌ヶ谷市では、鎌ヶ谷市における審議会等の会議の公開に関する指針により、会議は個人に関する情報などの法令に定めのあるものを除き、原則公開とされておりますので、ご了承いただきたいと思います。

～傍聴人の有無を確認～

本日の傍聴人はいらっしゃいません。

これからの議事進行につきましては、平栗委員長にお願いしたいと思います。委員長よろしく申し上げます。

(委員長)

はじめに、この会議は、鎌ヶ谷市きらりホール運営委員会設置要綱第6条第2項により、過半数の委員の出席をもって成立することとしており、本日の会議は成立しております。なお、内山委員は所用により欠席されております。

それでは、まず、本日の会議録署名人を決めたいと思いますが、事務局から提案をお願いします。

(事務局)

鎌ヶ谷市きらりホール運営委員会委員名簿の上から順にお願いすることとし、本日は清水委員と伊藤委員にお願いしたいと思います。

(委員長)

ただ今、事務局から提案がありましたが、清水委員と伊藤委員に本日の会議録の署名をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

議題に入る前に、当委員会の委員である植草ひろみ氏から「“聴衆を増やすプロモーション” から繋がり “きらりホールから発信する夢”」についてご講演をお願いいたします。

### 3 基調講演「“聴衆を増やすプロモーション” から繋がり “きらりホールから発信する夢”」

～植草委員より講演～

### 4 議題（１）平成２６年度きらりホール事業報告について

（委員長）

議題（１）平成２６年度きらりホール事業報告について事務局説明願います。

（事務局）

前回の会議で中間報告をいたしましたので、資料１に沿って、簡単に説明させていただきます。

きらりホールは、「感動」「創造」「交流」の拠点になることを目指し、そのために「鑑賞」「創造」「普及」「情報発信」「交流・体験・協働」の５事業に沿って、自主事業を計画し実施してきました。

２ページ目の（１）事業展開では、５事業の内容とそれぞれの決算額を記載しています。（２）各きらりホール自主事業概要として、別紙１－１は公演内容とアンケート結果を記載しています。別紙１－２はチラシの一覧になります。（３）総括として、平成２６年度は初年度ということで様々なジャンルの公演を行ってきた結果、市内はもとより、市外、県外からの来場者を呼び込むことができ、きらりホールのPRにも繋がったと思われまます。

反省点としては、子ども向けに夏休みの７、８月に集中して公演を実施しましたが、他のイベントと重なったこともあり、来場者が分散していたように見受けられます。

年間を通して自主事業の本数が多かったため、一つの事業にかける時間や労力が分散し、準備不足な点が多かったように思います。今後は、他市や周辺の状態を確認しながら、自主事業の実施時期や本数を検討していきます。

また、初年度ということで、リサーチ不足から広報・宣伝がうまくいかず、来場者数が振るわないことが多々ありました。今後は、新たな宣伝方法の開拓、情報発信体制の構築が必要であると考えています。

今後は全世代対象の公演だけでなく、対象者を絞り込んだ事業を実施していく必要があると思われまます。また、若い世代や男性、その他無関心層に対してアプローチする仕掛けが必要であると考えています。

次に、３ページの２．きらりホール貸館・管理事業におきましては、新しい施設とい

うこともあり、利用率72%という高い数値となりました。今後も継続して利用していただくため、安心・安全な運営はもとより、継続的な職員研修やフォローアップの体制が必要であると考えています。

最後になりますが、今後はきらりホールに合った評価指標・基準を策定し、客観的に判断していく必要があると考えています。

(委員長)

只今、事務局から議題(1)の平成26年度きらりホール事業報告について説明がありました。このことについて、何か質問、ご意見はございませんか。

～一同了承～

## 5 議題(2)平成28年度きらりホール事業計画(案)について

(委員長)

議題(2)平成28年度きらりホール事業計画(案)について事務局説明願います。

(事務局)

議題(2)「平成28年度きらりホール事業計画(案)について」資料2と別紙2に沿って説明させていただきます。

はじめに、資料2にあります、平成28年度きらりホール事業計画(案)は、かまがやレインボープラン21を基本とし、きらりホールの使命を「人づくり」「地域づくり」「まちづくり」としています。「人づくり」「地域づくり」「まちづくり」を目指すためには、きらりホールは感動機会を多くする「感動拠点」、創造機会を多くする「創造拠点」、交流機会を多くする「交流拠点」となることを目指し、その目的達成のために、「鑑賞事業」「創造事業」「普及事業」「情報発信事業」「交流・体験・協働事業」の5事業を展開していきたいと考えています。

その5事業に沿った具体的事業案が資料2です。ただ鑑賞するだけではなく、実際に観客の方にワークショップや楽器クリニックなどの機会の提供を多くしていきたいということから、仮に「体で感じる感動」というテーマにしました。具体的事業案のところにある「鑑賞事業を観るにあたっての基礎講座や出演者によるワークショップや楽器クリニック」のところに矢印がついているのは、各事業の出演者に市民参加型のプログラムも併せて行っていただきたいという考えからです。また、有料の事業を12本に減らし、その分、芸術に触れる機会を多くするための無料事業を増やしていきたいと考えています。

具体的な事業案ですが、優れた文化を鑑賞する事業として、敷居が高いと敬遠されがちな公演で、かつ近隣市でも見る機会の少ない公演を実施したいと考えています。平成26年度はフラメンコを実施し、平成27年度は能を実施する予定です。平成28年度は、歌舞伎や人形浄瑠璃、雅楽を候補に挙げています。また、集客を図るために七夕やクリスマスなど季節にちなんだイベントを実施したいと考えています。コンサート、演劇においては、あえてジャンルを書いていませんが、皆様からご意見を頂きたいと思っ

ています。

高齢者対象事業としては、遠くへ出かけられない方が楽しめる公演をとということで、候補として漫才、昭和歌謡を挙げています。

また、0歳から気兼ねなく親子で楽しめるものが欲しいという意見を多く頂いているので、子ども対象事業を実施したいと思っています。

映画鑑賞事業としては、「Kinder・フィルム・フェスティバル」を候補に挙げました。その中では、スクリーンの前で実際に声優が演技をする「ライブ・シネマ」や、声優体験ができるワークショップを実施します。また、良質な映画を広めたいという、会館長の思いがあり、単館系映画で観る機会が少ない映画の上映を候補に挙げさせていただきました。

鎌ヶ谷市ゆかりの鑑賞事業としては、別紙2にありますように、鎌ヶ谷市又は近隣市のアーティストを紹介させていただきました。ほかにご存じのアーティストがいればご紹介して頂けたらと思います。

芸術を身近に感じる事業としては、無料のミニコンサートや舞台のピアノを無料で体験できる事業を候補として挙げました。

市内小中高校生に向けた事業としては、コンクールの準備や発表会として、今までどおり積極的に利用していただきたいと思います。

知的好奇心を満たす事業としては、今後、東京オリンピックがありますので、スポーツ選手を呼んで講演会などを実施し、情報発信していきたいと考えています。また、SNS利用やイベント情報の発信に留まらず、地域文化の発信をしていきたいと考えています。

市民が参加する舞台芸術創造事業としては、市民創作ミュージカルを実施する予定です。現在、平成27年度3月に実施する市民創作ミュージカルのオーディションが終わり、25名が参加予定です。相澤委員に脚本と演出をお願いしており、追加で参加者を募集する予定です。

交流事業としては、鎌ヶ谷市ゆかりのアーティストと市民団体とのネットワークづくりができればいいなと思っています。

舞台裏から芸術文化への関心を高める事業としては、バックステージツアーや舞台技術講座などを定期的実施したいと思っています。

ボランティア育成事業としては、ボランティアスタッフを育成し、市民と一緒に自主事業を作り上げていきたいと思っています。

これらの事業は、あくまで候補ですので、こういう事業をした方がいいのではないかと、この事業は鎌ヶ谷市で行う必要はないのではないかとのご意見がありましたら、ご自由にいただきたいと思います。今回、皆様から頂いた案をもとに、出演費用や出演者の日程を確認し、次回の運営会議で詳細な案をお示ししたいと考えております。

(委員長)

ただ今、事務局から議題(2)の平成28年度きらりホール事業計画(案)について

説明がありました。このことについて、何か質問、ご意見はございませんか。

(委員)

情報発信事業についてですが、実際に広報や新聞に出た後のチケットの売れ方はどうですか。

(事務局)

広報や新聞に載った日は必ず電話がかかってくる。

(委員)

どのくらいですか。

(事務局)

平成26年度の「きらり浅草漫才」が広報に載った翌日は窓口に行列が出来ましたが、平均すると1日4、5件かと思います。

(委員)

新聞に広告が出てもなかなかチケットが動かない時代と言われています。広報は市のもので無料ですが、お金をかけて新聞に大きな広告を載せたからといってチケットが動くわけではないようです。

(委員)

資料を全部チェックしてきましたが、先ほどの講演でおっしゃったような昼と夜に公演するのはいいと思います。昼と夜で内容を変えるのもいいし、ターゲットを絞った方がいいと思います。例えば、「アフタヌーンコンサート」、「七夕コンサート」というようなイメージのタイトルを付けて、年1回ではなく定期的に行えばいいと思います。

先ほどの基調講演でオーディションをやるという話がありましたが、クラシックのオーディションだと次の仕事に結び付くと思いますが、他のジャンルやオムニバスでやった場合は、誰がどこに売り込んでくれるのかがわからないとオーディションの意味がないと思います。それよりも、市民や近隣の人が、きらりホールを使って、自分の持っているものを発信する登竜門的なイベントを定期的に行っていくのがいいと思います。6組とか20分くらいずつなど、オムニバスで行っていくことによって、出場者はアピールできるし、見ている人も感じるものがあると思います。ただ、それに対して、誰が評価するのか、やるだけでいいのかを考えなければいけないと思います。

以前、仕事で宣伝をやっていたので、広報活動が一番大切だと思います。市の広報に載せても誰が見ているのかと疑問です。定期的に市民に伝える方法を考えていかなければいけないと思います。例えば、月刊できらりホール通信を作って、裏に月間のスケジュールを載せます。自治会の班回覧や公共施設に設置し、最初は委員長の挨拶を載せて、まず1号目を出します。2号目以降は、これからやるイベントに対するアピールポイントやコメント、開催後は感想レビューを載せるといいと思います。運営委員がフリーパスで好きな時に公演を観て、簡単なコメントと写真を載せて発信する、これが最低限必要かもしれないと思います。

報道機関を利用することが大事です。行政だけでは絶対無理です。きらりホールで行

った聖徳大学のミュージカルを観ましたが、良かったです。あれは新京成電鉄株式会社がスポンサーに付いています。スポンサーを付けるのはとても大きいです。鎌ケ谷市内の企業のスポンサーを付け、お金での援助なのかわからないが、例えば、イベント時に企業のサンプルや梨を入場者に配るなど特典を付けます。市民をペアで2組招待するなどの手段を使って、得だと思わせることもできます。

それから、色々なジャンルの人が出るイベント、例えば、「ディズニーの曲だけしかやらないコンサート」で、ジャンルは問わずにディズニーの曲だけを演奏する、その様な括りがあると意外と聞きやすいです。

「0歳から親子で楽しめるイベント」とありますが、行政のセクションで、お母さん達がどういったものを望んでいるのかを話し合っ、リサーチしてから企画を考えることが必要です。鎌ケ谷市の社会福祉協議会では、自宅で介護をしている家族のために1か月に1回、少しでも癒しになるようにとの主旨でイベントをやっています。妻はそこでボランティアでフラダンスをしています。私達夫婦も、「おじいちゃんがデイサービスに行ったから、映画に行こう」ということで、映画を観てご飯を食べて帰って来ます。そういう人達が来られるようなものを作ってあげたいと思います。

映画上映、とてもいいと思います。映画は著作権があるから難しいかもしれませんが、西田敏行が出演した東日本大震災をテーマにした「遺体 明日への十日間」という映画は、良かったです。DVDで借りて観ましたが、泣きました。いい映画はこちらから提供することが必要です。単館系映画は人が集まるかどうかは別として、年1回だけではなく、春夏秋冬など定期的にやればよいと思います。

小中学校が借りる場合、ホール使用料は無料ですが、一つの学校だけではなく、小中学校の吹奏楽部やギター部など、音楽括りで複数校一度に出ればよいと思います。父兄や友達など、客は入りますし、定期的にやってあげたいと思います。

バックステージツアーは、学生に限らず、一般の人にも「きらりホールの運営やイベントはこうやっているんだよ」と見せることは必要だと思います。

千葉県知事はオリンピックの競技を千葉県で開催するように動いていました。オリンピックに向けて千葉県全体の士気を上げ、ムーブメントを作りたいというコメントを出しています。鎌ケ谷市在住のウィルチェアラグビー選手の荻野晃一さんの講演会に行きましたが、彼はパラリンピックに4回も出ています。千葉県にはメダリストもたくさんいます。そこで、「鎌ケ谷市は東京オリンピック、パラリンピックを応援しています」と打ち出したらいいと思います。ユニオン通りの「街かど美術館」は、平成15年から絵が変わっていません。オリンピック競技の絵を小中学生に描かせると、絶対に報道機関は飛び付きます。そこで、講演会をやって、その後に懐かしの東京オリンピックの映画を観せると、絶対に新聞は取り上げてくれます。そういうイベントを考えてあげたいのではないかと思います。

月間のスケジュールを見ると、土曜でも空いている日があり、もったいないと思います。「この日は空いてますよ」と市民に知らせることが必要です。平日は、植草委員が

おっしゃったように演劇もコンサートも、昼間はシニアが多いからというだけではなく、昼しか行けない人もいますので、アレンジして色々なことをやっていけばいいと思います。

(委員)

これだけ色々な案や意見がありますので、前回の会議の意見にもあったように、半年に1回の会議だけだと、具体的にしていくということがなかなか実現できないと思います。全員が集まらなくても、分科会でもいいので、会議を増やした方がいいと思います。

私は演奏する立場ですが、植草委員の講演でいろいろ共感できることが多かったです。昼と夜のコンサートというのは、例えば、昼は「赤ちゃんを抱っこして連れてきてもいい、時間も40～50分で短く、赤ちゃんが泣いてもいいからどうぞ聴いてください」というようなコンサートがいいと思います。時間的にも上のお子さんが幼稚園に行っている間や、お昼を過ぎるとバスが来るから、それまでに帰れるというようなものいいと思います。夜は仕事帰りの方に向けて、あまり長いと疲れてしまうので、短めに、まずは始めてみることにしたいと思います。

資料を読ませていただきましたが、いらっしゃるお客様が決まっています、年代的にもお金と時間に余裕のある方が多いようです。それだけではなく、次の世代にも受け継いで、もっと広めたいと思います。ぜひ力になれば嬉しいなと思います。

(委員)

「0歳から入れるコンサート」と「16時までに帰りたい中高年の世代のコンサート」は分けたほうがいいと思います。13時半という設定にしたのは、実際私も父の介護をしています、デイサービスに行き帰ってくるのが16時過ぎです。あと、お子さんが家に帰ってくるので、その時間までに帰る方もいます。その方達の癒しになって欲しいという思いから、コンサートの開演時間は13時半としています。船橋市のきららホールで初めて公演した際は、開演時間は15時と指定されましたが、15時には来られない人がいるからという理由で13時半に変更してもらいました。

演劇は昼夜公演を行っていますが、演奏家は慣れていません。ソロコンサートで1時間半くらいの公演を1日2回やることはなかなかありません。私は頻繁に2回公演を行うので慣れていますが、私の仲間は皆慣れていません。演劇の世界の人は昼夜公演ができていないのに、なぜ演奏家はできないのか、アーティストとして、これからやっていくべきではないかと思っています。

単館系映画の上映ですが、渋谷に小さな映画館があります。芸術に関係したものばかりやっていて、ここでしかやらないものがありますが、都合が合わず行けないことが多いです。アーティストを取り上げたドキュメンタリーなど、変わったものが多いです。「あそこでしかやらないけど、きららホールでやるらしいよ」と宣伝できるような映画を引っ張ってきて、独自のイベントができればいいなと思います。

(事務局)

単館系映画は、貸出しをしていないものが多いようです。新鎌ヶ谷に映画館を建設するかどうかという話があったときに、普通の映画館では客が来ないので、それなら、渋

谷や銀座、新宿にあるような単館系の映画館が良いのではないかと考えていました。

いろいろな映画を観てきましたが、良い映画でもほとんど有名になりませんでした。観れば面白いけど、配給会社が小さいので2週間しか上映せず、話題になりません。そういう映画が多いです。「あの映画を見たかったけど、1週間しか上映しないから観られなかった。でも、きらりホールに来ると観られるね」と言われるようなことをやってみたいなと思います。

(委員)

「ゲキ×シネ」というものがありますね。限られた映画館でしか上演していませんが、見逃した演劇を観られます。

(委員)

よくやっているのは「宝塚歌劇」ですね、生中継をしていますね。

(委員)

「ゲキ×シネ」を前の方の席で観ましたが、臨場感があって良かったです。

(事務局)

「シネマ歌舞伎」もありますね。

(委員)

本物を見られなくても、映像で観て、知識を高めることができます。

(委員)

本物を見るのはちょっと敷居が高いし、値段が張るので、2万円のところを何千円で見られるというのはいいと思います。

(事務局)

「ゲキ×シネ」は2,500円でしたが、今は1,800円になりました。

(委員)

「宝塚歌劇」を観てみたいですが、どうやって子どもは行くのだろうと思います。公演時間が子どもは行かないものと考えられている気がします。

(委員)

きらりホールはスクリーンが一番後ろにあり、映像が暗いです。スクリーンを前に移動できると、もっと観やすいです。それが課題です。映画は1日限りの上映だと、来られない人がいます。単館系だと上映期間が何日かあります。使用料は高いかもしれませんが、平日だと1日に3回上映することもできます。

(委員)

きらりホールができて、設備もそれなりのものがあるし、舞台技術者も「明治座」というプロが入っています。今まで鎌ヶ谷市に三橋記念館しかなかったので、どの程度のことをきらりホールでできるのか、使用者には専門的な知識がありません。知識がないために、舞台技術者と打ち合わせをしても話が噛み合わないことが多いです。使用者向けに舞台技術講座をやっただけだと、舞台技術者との打ち合わせがよりスムーズになると思います。

(委員)

この間、コンサートを開催しましたが、満員で入れないくらいで、700人以上来ました。今後は検討中ですが、平日の夜に公演をするのは、全然お客さんが入らないかもしれないし、なかなか冒険ができません。前にレインボーホールで2回公演を行いました。が、団員が疲れてしまったので、難しそうです。

運営委員になってから、団員や他の団体からいろいろな話を聞きます。先ほど分科会の話がありましたが、大賛成です。例えば、予約方法や抽選方法については、常々おかしいと思っています。市川市を参考にしたと聞きましたが、市川市と鎌ヶ谷市の環境は違います。いろいろ検討した結果だと思いますが、一般の方の意見も聴いていただきたいと思っています。事務局に言ったこともあります。予約については、1か月待たないといけないので、心配だから他の公民館や他市ホールを押さえなければいけません。そうすると、白井市のホールを押さえなくても、きらりホールの予約が取れたら、キャンセルしなければならず、今まで2回もキャンセルしています。白井市は、翌年分を予約するために毎月1日に集まります。話し合いができるので、結果的に無抽選になることもあります。鎌ヶ谷市は1か月待たないといけません。指揮者の予定を押さええているから、日にちをずらすのは難しいし、プロの方は1年、2年先を押さえなければいけません。鎌ヶ谷市からキャンセルが多くなると、他市ホールへの評判が悪くなります。

(委員)

例えば、来年の6月に使いたい人は6月1日に集まって、申込書を書いて、そこで抽選をし、決めるのです。抽選が外れれば、6月1日だから、まだ他市の空きがあるかもしれないので、可能性があります。

(委員)

1か月待たなければいけないのは本当にきついです。

(委員)

他の公共施設はインターネットで申込み状況が見られます。せつかく土日でも空いているときがあります。空きが分かれば、使いたい人がいるかもしれないので、方法をもう1回考えてもらいたいです。とにかく、たくさんの人に使ってもらいたいです。

(委員)

やはり、こういうハコモノはどういう施設も相当維持費がかかっています。白井市は1～2億円くらいかかっていると聞きました。ここは500人ですから、そんなにかかっているはずですが、それでも7000万円くらいかかっていると思います。きらりホールを使いたくても、抽選に外れたり、行政予約が入っていたりして、なかなか予約が取れません。そうすると、きらりホールにはお金が入ってこないわけです。果たして、一般の人が使える日は何日あるのかと聴きたいです。学校が使うのはいいと思いますが、何か方法を考えないといけないのかもしれないかもしれません。もったいない気がします。

私達が使いたい時期は、10、11月ですが、「市民文化祭」で2か月使えません。「市民文化祭」は無料ですが、私達は10万円くらい払っています。10月最初の日曜日は

空いていましたが、抽選に外れました。鎌ヶ谷市だけでなく柏市や松戸市などで、きらりホールを使いたい人がいると思います。なんとか、財政的なことも考えていただきたいです。

(委員長)

「市民文化祭」は、市民のためのイベントですから、お金が目的でやっているものではないです。

(委員)

それはわかっています。本当に勝手な言い分ですが、「市民文化祭」は今まで三橋記念館で行っていました。三橋記念館は200人しか入れません。現在、レインボーホールの空きが多いらしいので、そこでやってもらうのもいいのではないのでしょうか。

(委員)

とても的を得ていると思います。きらりホールの主軸は何なのか考えなければいけません。市民に楽しんで使ってもらおうということは前提ですが、せっかく使おうとしても予約が取れないということもあるので、抽選方法や申込み方法を改善していかないといけません。特に楽団は人数が多いし、全員のスケジュールを押さえるのも大変です。日程が早く決まればスケジュールを組みやすいです。

(委員)

きらりホールを使いたいけれども、財政的に難しく、「市民文化祭」のために1年かけて一生懸命練習している、そういう団体もあります。今まで何十年も鎌ヶ谷市の文化を支えてきた小さな力です。そこを否定するのは心外だなと思います。

(委員)

否定は、していません。勝手な言い分ですが、10、11月でなく時期をずらしたり、きらりホールではなくレインボーホールでやるのはどうかということです。今まで三橋記念館でやってきたので、急に大きなホールでやったところで満席になるのかどうか疑問です。

(委員)

特定の団体と「市民文化祭」は優先的に申込みできるとか、10、11月の中でお互い話し合っけてスケジュールを押さえるとか、やり方はあると思います。

(委員)

優先的に特定の団体だけとなるとどうかと思います。きらりホールを定期的に使う団体がありますので、その中で話し合いをするとか、歩み寄っていかないといけないと思います。

「市民文化祭」の場合は、連合して皆で使うので、大きいホールでも人が入らないということはあまりないです。譲歩して、2年に1回の開催にするなど、開催方法は考えていかないといけないのかなと思います。時々分散して、あちこちの公民館で開催するというのも必要かもしれません。ただ、ホールを使うことを諦めていた人達が、「こんなホールができて、ここに出られるなんて」と喜んでいる、そこを考えてもらいたいので

す。

(委員)

普段はホールでできないような、公民館レベルでやっていた人達は、「こんないいホールでできるのか」という達成感があり、次に繋がります。それは大切にしなければなりませんと思います。ただ、早めに予約しないといけないし、早めに空きの情報がわからないと、スケジュールを押さえられないので、そこは考えて欲しいです。

(委員)

1年前に予約できるわけですから、その時点で空き情報が分かると思います。その1か月待つという理由がよくわかりません。

(事務局)

市内は12か月前、市外は11か月前から予約できるので、1か月の差があります。他市は市内も市外も同じ状況で抽選をしていますが、鎌ヶ谷市は市内を優先しています。重なった場合は抽選になり、その後に市外の方も権利を持ちます。言うなれば、市内に優しくしていますが、それよりも市内も市外も差をつけずに一緒にした方がいいのかどうかということです。

(委員)

半自主公演というような感じで、「市民文化祭」として1か月間は文化的な月間にし、抽選をしないことも考えられます。

(事務局)

「市民文化祭」は、文化・スポーツ課が行政予約として押さえています。

(委員)

行政使用で予約していたのに、後で空きになったということがあります。もったいないです。

(委員)

空き情報をインターネットで検索できるようにしないとイケません。

(事務局)

現在、システム作りをしているところです。

(委員)

小中学校の立場から、いくつかお話をさせていただきます。実際、学校できらりホールを使うとなると、少し狭いです。子どもが500人前後いますので、保護者が入れません。中学校は他市のホールを使っています。せっかくホールができたのに使えないのは残念です。小中学校で音楽発表会を行っていますが、複数の学校が集まるとなると1回でできません。前回、何日かに分散して行いましたが、いろいろな問題がありました。大きな団体としてやるとなると、厳しいと思います。使いづらいというところが本音です。

オーディション的なことをやるのは賛成です。小学校でも昼休みに自分で歌を歌って放送で流すということをやっています。皆、一生懸命歌っています。自分で参加するの

は大切なことです。

中学校では、文化祭でバンドを組んで出たいという子がたくさんいます。そういう子は、以前に比べると多くなってきているかなと思います。無料で参加できる発表の場を作れば、必然的にグループで参加して、何かをやりたいという子も出てくると思います。そこで、例えば優勝だとか認められたら次がある、そういうシステムができてくると、とても盛り上がる気がします。昔より、自己アピールをする子が増えてきて、普段大人しい子でも出たいという子もいるので、内面的なものを発掘する場としていいと思います。そこには、ある程度作っていかないといけないという難しさがあるので、さすがに学校ではできませんので、外部の方がやっていただけるといいかなと思います。

(委員)

オーディションという、次の段階を作らなければいけません。登竜門、まずは自由に発表できる場を作ってあげて、定期化すれば、ある程度批評できる人を入れていけばいいと思います。

(委員)

どういったものが良いのかが分かれば、子ども達もより良いものを作ってきます。

(委員)

例えば、「ダンス甲子園」、そういうものは必ず報道機関が付いてきます。優勝するとアメリカのコンテストに出られるとか、ステップがあるといいと思います。まず、ジャンルを問わず、自由に発表できる場があればいいと思います。バンドの場合は機材を用意しないといけないから、ホールの舞台機構とも相談しながら、まずは皆が出られるような場を作って欲しいです。

(委員)

そこで何か評価があって、例えば、ロビーやテラスでコンサートができるといいと思います。

(委員)

プロの道に進むかというのは別ですが、物によっては、ケアセンターや病院などにボランティアで行って、高齢者や患者の前で披露することもいいのではないかと思います。

今、実はアニメが凄いです。息子がアニメの作曲家で、年末にアニメの劇場版の音楽をやります。アニメの主題歌や音楽の作り方についてのインタビューを受けたり、CDもたくさん出しています。来年はアニメに関わるイベントをやってもいいのではないかなと思います。

やはり、今後は通常の会議だけでなく、来られる人だけ集まって、話し合いをしていけばいいものができると思います。

4年間、「鎌ヶ谷市民まつり」のステージのチームリーダーをやっています。市役所の駐車場でステージをやっていますが、来年は音楽やダンスイベントを「鎌ヶ谷市民まつりパート2」として、良いものを外で見せるだけでなく、音響もいいホールでやってみたいなと思います。

(委員)

何か評価をという話ですが、予算もあるので、「YouTube」に載せるのもいいと思います。例えば1位になったら、3分程度の映像を作ってあげて、きらりホール発信というように「YouTube」に載せます。なぜかという、今本当に「YouTube」は捨てたものではなくて、例えば「2CELLOS」は、彼らが自分で載せたものを有名な歌手がみつけて、世界に発信されました。「YouTube」発信でスターになる人は多いです。短くてもいいから、プロモーションビデオを作って商品にするとか、きらりホールのお勧めとしてプッシュするというような特典を作ってあげたらいいかなと思います。

(委員)

載せるのはお金がかからないですからね。

(委員)

載せるのもお金がかからないし、作るのもそんなにお金をかけなくてもできます。

(委員)

ちゃんとした機材じゃなくても作れます。

(委員)

著作権料はかかるのですか。

(委員)

著作権料は「YouTube」が払っています。私もアルゼンチンの「アストル・ピアソラ」の曲を載せていますが、問題ありません。ただ、お子さんなどが作ったオリジナル曲を著作権登録をする前に発表することが問題です。登録前に発表してしまっただけで、それが使われてしまうこともあります。反対に、それが素晴らしいからデビューできるという可能性もあります。

(委員)

著作権の問題は難しいです。きらりホールがバックアップして、発表の場を作り、良いものを世界に発表していけばいいと思います。CMがつくと広告収入が凄いですからね。最初から決めつけしないで、段階を踏めばいろいろなことが出来ます。まずは、皆が出て楽しめる場所を作ってあげるのがいいと思います。

(委員長)

今まで発言していない方、どうぞ。

(委員)

私も劇場にいましたので、劇場側として言われると辛いものもあり、やりきれない部分もあります。きらりホールはまだできて1年ですので、どんどんいろいろな意見が出て、状況が分かってくるのはこれからだと思います。市民主体でやっていくことは、何よりも素晴らしいと思います。

一般社団法人日本劇場技術者連盟の理事長をやっていますが、専門劇場で育ったこともあり、どうしてもプロ志向が高かったのですが、時代が変化してきて、市民が主役と言われるようになりました。きらりホールの場合も市民主体に考える舞台の裏方もいま

すので、そういう面でもきらりホールを宣伝していくことができれば面白いのかなと思います。運営委員にこれだけ凄い市民が集まっていることに驚きました。

(委員)

今度、自分の劇団で来年の2月に公演を行うのですが、その時はレインボーホールを使います。きらりホールは大きすぎて、客席を埋められないので厳しいし、劇場の舞台機構が演劇をやるには使いづらいです。

日程については、以前は土日公演を主体に考えていたのですが、今は月曜まで開催することも考えています。土日はやはり使用料が高いし、以前月曜にたまたま開催してみたところ、日曜より月曜の方が人が入りました。日曜はかなり宣伝して人を呼ばないと客席が埋まりません。日曜の夜公演は、本当にガラガラで最悪です。むしろ、月曜で遅めの時間帯の方が人が入ります。以前会社で働いていた時は、20時以降でないと観に行けませんでした。

最後に、資料でアンケートを毎回まとめてくれていますが、良い意見が凄く多いです。アンケートを書くのは、良かったと思っている人ですので、どうしても評価が高くなりがちです。嫌だと思った人は次回は来ないだけであって、何も形に残りません。客観的な評価指標や基準を作った方がいいと思います。

(委員)

私がお芝居を観に行くのは、帰りに食事に行ってというように時間的に余裕がある日です。自分の劇団で公演を行う時は、会館の退館時間を考えます。早いところは18時には撤退しなければいけないので、なるべく1日1、2回で、2回目は17時か18時に行っています。少し離れたところに行くのと電車の時間もかかりますので、昼間の方が開催しやすいです。平日は観てくれる人が少ないので、今まで試したことがありませんが、平日の夜にもチャレンジしてみようかなと思います。

10年くらい小学校で演劇を教えていました。夢がない、夢をもっていない子が多いという話がありましたが、どんなに大人しい子でも、何かを表現したいという気持ちが凄くあります。最近、学芸会など発表する場がないので、本当に可哀そうだなと思います。何か得意なことを皆に見せる機会があって、それで少しでも凄いねと言われると、一生の思い出になって、そういう道に進むかもしれないです。先日、市民創作ミュージカルのオーディションを行いました。本当に子ども達は芸達者です。歌もお芝居もできます。そういう子ども達の可能性を発掘する場所となり、どんなに特技がなく自信がない子でも、こういうことができるんだと自信を持って、社会に出ていけるといいなと思います。

私自身も子どもの頃から何も自信がない、地味な子どもで、小学校の時に登校拒否になりました。ところが、学芸会の時に先生がいい役をつけてくれて、それを観てくれた人達が拍手をしてくれました。そのことが忘れられなくなり、どんどん自信が湧いてきて、勉強も頑張るようになりました。きらりホールが子ども達に表現力を与える場所となればいいなと思います。

(委員長)

私からも話してもいいですか。様々な芸術文化を伝えていきたいという強い希望がありまして、去年から鎌ヶ谷市立西部小学校で「かまがや再発見クラブ」という活動をしています。月1回、毎回違う分野の講師が行って、子ども達に自分が持っているものを教えています。学校が歓迎してくれ、大変興味を持って取り組んでいただき、1年間いい事業をさせていただきました。鎌ヶ谷市立初富小学校の土岐校長先生にも興味を持っていただき、今年から鎌ヶ谷市立初富小学校でも活動させていただいています。現在進行中ですが、我々の持っているものが少しでも伝わっているのかな、やって良かったなと思っています。

もう一つ、6月26日に、きらりホールで「じんじん」という映画の上映会を行いました。結果的に700人以上の方に来ていただき、大変評判が良かったです。午前と午後、夜と3回上映しましたが、予想に反して、午前が一番人が多くて、夜は少なかったです。

広報活動については、広報かまがやに掲載していただいたのですが、きらりホールの自主事業は別枠なのに、我々の映画の記事は本当に目立たないところに載っていました。同じきらりホールを使って、こっちはお金を出して使っているのに、扱いが悪いなと思います。ぜひ改善してもらえればと思います。

また、自分の町内会にチラシを回覧した影響も大きい気がします。きらりホールの自主事業のチラシも回ってきますが、一度は目を通すので、この影響は大きいのではないのかなと思います。

きらりホールの申込み方法については、検討してもらいたいです。

(事務局)

抽選のシステムについては、検討させていただきたいと思います。システムを変える場合は、早めにお知らせしていきます。

～一同了承～

## 6 議題(3) その他 今後の会議日程等

(委員長)

議題(3) その他 今後の会議日程について事務局説明願います。

(事務局)

来年度の予算の要求書を10月末に提出しますので、その前にある程度、事業を固めて金額を出したいと思います。こんな事業をやって欲しいというご意見があれば出してください、こちらでも検討させていただいて、仮に案を作ります。その後、8、9月の間に各委員と個別にやり取りをして、事業を固めていきます。10月の1、2週目にほぼ確定して、10月末に予算要求するという形を取りたいと思っています。意見をまとめるのに分科会を開くのが一番いいとは思いますが、一度に全員集まらないと意見が偏ってしまいますので、今回は個別に意見をいただき、最終的には10月の運営委員会で

確定したいと思います。分科会の開催については来年度以降検討させていただきます。

(委員)

10月の最終週に予算要求書を提出するので、その前に会議を開くのですか。

(事務局)

遅くとも10月の2週目には会議を開きたいと考えています。その前に各委員にご意見を伺いたいと思います。

(委員)

オーディションに関しては、皆さんの感触が良かったので、提案させていただきます。

(委員)

登竜門みたいなものですね。

(委員)

登竜門を3日間開催するのであれば、何名かずつ運営委員が立ち会ってコメントを言うという感じですね。予算を取っていただいでできればいいなと思います。

(事務局)

どのようなジャンルですか。

(委員)

邦楽でもダンスでも、何でもいいと思います。

(委員)

ジャンルを分けると偏りが出るので、オムニバスで、3日間程度開催して、運営委員だときちんとしたコメントを言えないかもしれませんが、アドバイスならできると思います。次の段階では、外部の人を呼んでコメントを言ってもらえればと思います。

(事務局)

具体的な意見があればいただきたいと思います。きらりホールはまだできて1年ちょっとなので、いろいろなことをやって、今後どんなことをしていくのかを決めたいと思っています。きらりホールの使命に「人づくり」とありますが、まずはこれからのお子さんをどうやってつくっていくかがテーマだと思います。私も自治会に入っていますが、隣の人の名前がわからないということがあるので、ここを出会いの場にしたいと思っています。言うなれば、この委員会も出会いの場です。全然知らない人と出会ったので、ここで付き合っていくって、気軽に会話ができる場所にしたいです。まだ、きらりホールの方針は固まらないし、今後変わっていくと思うので、そのことを含んでご意見をいただければ有難いです。

(委員長)

その他、何かありましたら事務局より説明をお願いします。

(事務局)

前回、加藤委員から、「運営委員が自主事業を実際に観て、感想を報告したらどうか」というご意見がありました。追加資料は、関係者席のご案内です。前日の17時までにご連絡いただければ関係者席をご用意します。追加資料には、「次回の運営委員会で発

表する」と記載していますが、加藤委員から、「運営委員会としてマガジンを発行し、運営委員がレポーターとして感想文を掲載するのはどうか」という意見がありました。  
(委員)

自主事業を観たら、口頭なりメールなりで報告してもらい、それをまとめてマガジンとして発行します。スピーディーさが大切です。きらりホールとしてマガジンを出そうとすると決裁に時間がかかるので、運営委員会として、平栗委員長の名のもとにマガジンを発行したいと思っています。事務局に印刷だけしてもらって、まずは班回覧や公民館などに配布したいです。

広報かまがやの掲載については、普段のイベントのお知らせは2、3行ですが、市民まつりも時期的には大々的に枠を取ってもらっています。きらりホールとして、大きなイベントの際には、大きな枠を取ってもらえればいいなと思います。

(事務局)

自主事業の枠はすでにあり、目立つ位置に掲載されていますが、自主事業以外は目立たない位置にありますので、そこは課題です。また、自主事業の関係者席をご用意しますので、ぜひレポートしていただければと思います。

## 7 閉会

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するために次に署名する。

平成27年9月27日

氏名 清水 暉允

氏名 伊藤 眞由美